



プレスリリース

平成 27 年 9 月 11 日 14:00

関西空港記者会 会員各位
水産経済新聞 みなと新聞 各位

大阪湾の貧酸素水塊速報をホームページで公開しました！ ～海底近くで発生する酸素の少ない水の情報～

大阪湾では春から秋にかけて、溶けている酸素の量が少ない水のかたまり、貧酸素水塊（※）が発生します。海底近くに貧酸素水塊が発生すると、そこに住む生物が逃避したり、場合によっては死滅するなど、海洋生物の生息環境が悪化し、漁業に悪影響を及ぼします。

当研究所では、大阪湾の環境モニタリング調査を定期的に行っており、このたび、当研究所ホームページにおいて下記のとおり貧酸素水塊の発生状況について、速報の提供を始めました。

すでにホームページにて公開している大阪府岬町地先における水温情報とともに、漁船や釣り船の運行等の参考情報としてご活用いただけると幸いです。

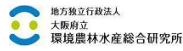
※貧酸素水塊

海底近くで有機物が分解される際に酸素を消費することで生じる。大阪湾などの内湾では、春から秋にかけて海水が海面から温められて層状になり、表層の温かい水と底層の冷たい水が混ざりにくくなるため発生しやすい。秋以降に海水が冷やされると、表層と底層の海水が混合することで解消される。

記

- 1 公開開始日： 平成 27 年 9 月 11 日
- 2 情報提供期間： 毎年 4 月頃から 10 月下旬まで（予定）
- 3 更新頻度： 毎月 2～4 回程度
- 4 提供情報例： 次ページ参照
- 5 ホームページ URL：
<http://www.kannosuiken-osaka.or.jp/suisan/gijutsu/do/index.html>

【ホームページ提供情報（例）】



平成27年大阪湾貧酸素水塊分布情報

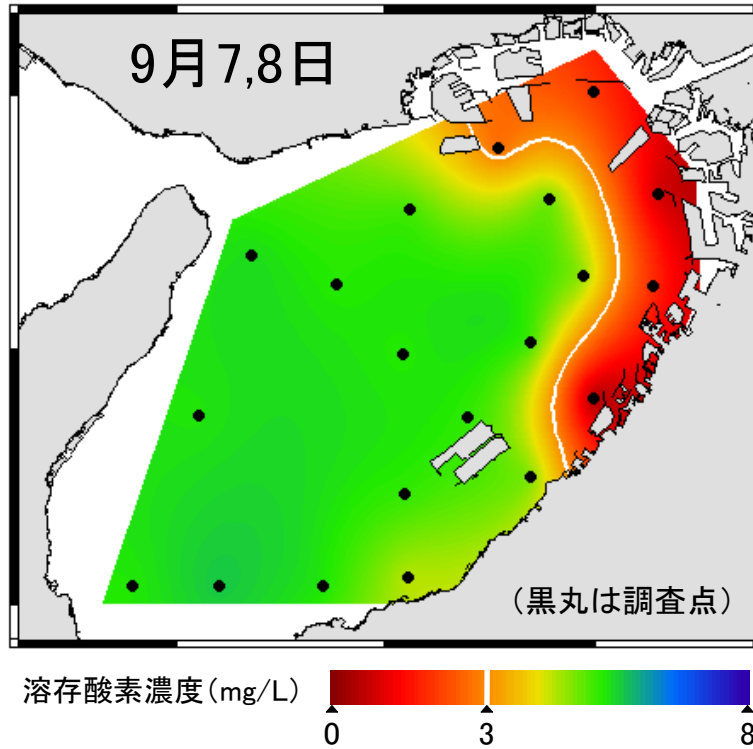


図 貧酸素水塊分布の例

海底付近の溶存酸素濃度分布を示す。図中の白い線は溶存酸素濃度が3mg/Lのところを表す。

※「底生生物の生存可能な溶存酸素最低濃度2.0mg/L」（水産用水基準2000年版）より、ここでは溶存酸素濃度3mg/L（ \approx 2.0mg/L）以下の水を貧酸素水塊としています。